

さあ、冒険の始まりです！ルーシーとシモンは目の前に広がる道を進み、しっかりと足取りで森の中に入っていました。粉雪が小道を覆い、ホイップクリームの上を歩いているように二人の小さな靴が沈んでしまい、とても寒いのです。そのとき、かすかに物音が聞こえました。規則的な小さな音です。

「カチカチ、カチカチ…」

「聞こえる？」 シモンが尋ねます。

「うん、吸血鬼の牙が音を立っているみたい。」

「やめて、怖がらせないでよ！」

震えながら言い返します。すると、震えた小さな声が二人を呼び止めました。

「や、や、やあ、お二人さん！」

それは、寒さで鼻が真っ赤になった小さな白ウサギでした。子どもたちはびっくりしました。

ひとしきり驚いた後、ルーシーは話しをするウサギを面白がり、返事をしました。

「こんにちは、小さなウサギさん。こんな寒い日に外で何をしているの？」

「カチカチ、ここはとっても寒いね、カチカチ！」 歯をカタカタ震わせながら言いました。

「1人なの？」

それに答えるように、小さなピンクの豚、リスにエスコートされたガチョウ、そして、ハリネズミとアナグマと一緒に茂みから出てきました。それから、ぶつぶつと不満を言いながらクマが遠くから付いてきています。

1 のステッカーをここに貼ってね!

ステッカーはLINEでお友だちになると
プチバトーのお店*でもらえるよ!

LINE ID:petitbateaujp

(*アウトレット店除くプチバトー直営店舗)

「みんなで一緒に暖まろうと思って、ここに集まったんだよ。」
と、優しいピンクのブタが言います。

「どうしてこんなに寒いんだ！」 不機嫌なクマが目くらを立っています。

「なんてことかしら！これは寒すぎるわ・・・シモン、どうにかしないと！」

「良い考えがあるよ！ 森の中の秘密の場所にショーツの木があるみたいなんだ！
それが本当なら、君たちはショーツを着ることが出来るよ！」

何かを着るというアイデアに、動物たちは大喜びし、嬉しくてみんなで飛び跳ねました。
不機嫌なクマだけをのぞいて。

「でも、そのショーツの木までは遠いみたいじゃないか・・・僕、考えるだけで疲れるよ。」

「ほら、元気を出して！ショーツを着て暖まっているところを想像してみよう！」

白ウサギが励まします。

2 のステッカーをここに貼ってね!

ステッカーはLINEでお友だちになると
プチバトーのお店*でもらえるよ!

LINE ID:petitbateaujp

(*アウトレット店除くプチバトー直営店舗)

「出発！」 ルーシーとシモンが掛け声をかけました。
こうして、この小さなグループは縦一列に並び、寒さや雪、凍えるような風に負けずに、小道を突き進みはじめました。でも、すぐに分かれ道にやってきました。ショーツの木まで行くのに、どちらの道を選ぶのでしょうか？

可愛い仲間たちの前には、左の「奇跡」の道が、まっすぐの「でこぼこ」小道の2つがあります。

あなたはどちらの道にすすみたい？

Instagramストーリーから投票!

(公式 Instagram アカウント @petitbateau_jp をチェック)

または、公式 LINE アカウントでは、選んだ道によって違うお話の続きが読めるよ!

公式 LINE アカウント: petitbateaujp をチェック!